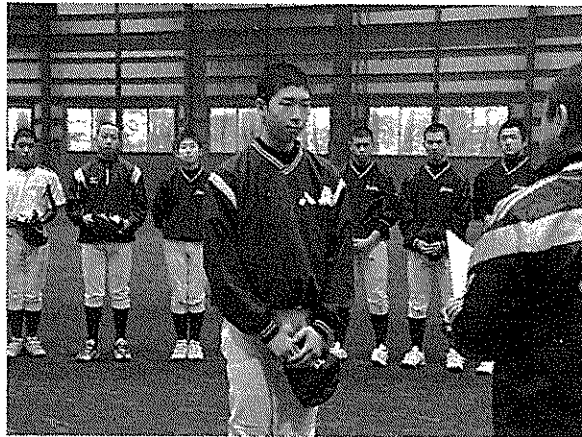


能代市協会

高校では甲子園目指し

硬式野球塾
修了式

4カ月間で成長の跡



修了証を受け取り、高校での活躍を誓った硬式野球塾の第7期生

中学校の3年生やリトルシニア能代のメンバーら33人で、最後の練習日となったこの日も、選手たちは意欲的に技術向上に励んでいた。

修了式では後藤会長が1人ひとりに修了証を手渡し、「きょうまでがたく頑張ってくれた。厳しい受験も乗り越え、皆さんの夢である甲子園に向けて活躍してくれることを願っている」と激励した。

甲子園球児を目指す中学3年生を対象とした硬式野球塾（大沢勉塾長）の修了式は先月20日、能代市の能代高室内練習場で行われた。第7期生33人に修了証が手渡され、塾生は指導者たちの大きな期待を受けながら高校での活躍を誓い合った。

生から硬式球に親しみながらプレーできる環境をつくり、地元の高校野球の底上げを図ろうと20年から毎年開講。中学3年生が部活動を引退した8月から始まり、能代高出身で元プロ野球選手の大沢さんを塾長に、能代松陵クラブのメンバーなどが指導に当たってきた。

大沢塾長も軟式球と硬式球の違いに戸惑いながらも練習に励んできた選手たちをねぎらい、「上達が早い選手ばかりで4カ月で大きな進歩が見られた。投げることや打つことも大事だが、長く野球を続けるためには走ることも必要。受験勉強が一段落したら、一生懸命走り込んで、たくましい

選手になってほしい」となと声を掛け、塾生たちの高校での活躍を期待してエールを送った。

佐藤玲央君（能代二中）は「はじめは球が捕れず、硬式と軟式の違いに苦労したが、練習を重

ねてだんだん慣れた。野球塾で学んだことを高校で生かしたい」と話していた。